

第8回 「無意味の意味」(2026.07.18 開催)

<概要をまとめる意義>

以下、今回の哲学カフェの内容について概要をまとめる。

これは議事録ではない。迷ったら何度もここに立ち返り、その内容を容赦なく批判し、議論しなおし、更なる”問い”の根源へ一歩でも近づくための手掛かりとしてほしい。

<無意味の意味>

私たちは常日頃から、意味のある(人生、仕事、時間)を求めて生きている。しかし、価値観が多様化し、意味や解釈が頻繁に入れ替わる現在、「本当は意味などないのでは?」と感じながらも、迷いを噛み潰し、日々の生活を送っている人も少なくない。この精神的葛藤と実際の行動のギャップが様々な病を生んでいる。今回の議論の中で、共有されたのは無意味への態度には大きく三つの考え方があるのではないかということだった。

① <実存として生きる考え方>

人生は無意味である。これを諦めではなく、自由への始まりとしてとらえる。無意味だからこそ、因縁や出来事とは関係なく「私」として人生を自由に選択できる。何者でもない私からスタートして、日々をそれ自体完結したものとして受け取り、楽しみながら生きていこう という考え方。

② <積極的保留という考え方>

人生では答えの出ない問題がたくさん起こる。一日に何度も起こることもある。その理由探しを一旦、保留して時間をかけながら考え、消化していく。その過程で疑問が風化することもある。ただの思い込みだったと気づくこともある。また、人生を重ねるうえでしみじみ「わかる」ということもある。結論を急がないというのは、意外と役に立つ戦略である。

③ <人生は意味にあふれているという考え方>

どんな人生にも必ず意味がある。私という存在が何かの意味を持つ瞬間が必ず来る。この人生について私が成し遂げたいことは何か。そこから逆算して、今日できることをやっていこう という考え方。

どれも味わい深い、共通しているのは「今この瞬間」を大事に生きていこうとする姿勢である。人生は一日では変わらない。あるいは1か月でも変わらないかもしれない。しかし私たちは、必ず老いて、死にゆく存在である。自分にとって、本当に意味のあるものは何か?それは必ずしもモノである必要もないし、もちろん他人の評価などを気にする必要もない。ただ、それが人生の中に「ある」と感じられること。その実感こそが人生を”意味ある”ものにしていけるのかもしれない。

“無意味”を読み解くキーワード>

- ・人は出来事に早く、もっともらしい理由をつけたい欲求がある

これらのキーワードから、新たな”問い“へ変換した。

<新たな問い>

- ・喜びだけでなく、苦しみも大切な意味を持つ

→いろいろな感情刺激、あふれる情報を取捨選択できるのは確実にスキルの一つである。